

釧路市教育委員会 令和5年第10回5月定例会会議録

1 日時：令和5年5月26日（金）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、外崎青少年育成センター所長、齊藤総括指導主事、神谷給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、乙黒スポーツ課長、松本博物館長、鈴木動物園長、北村阿寒生涯学習課長、長谷地音別生涯学習課長

4 議事録署名人 種村委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 義務教育学校開校準備協議会（大楽毛地区・音別地区）の設置について
- (2) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催について
- (3) 令和5年度「少年の主張」釧路市大会の開催について
- (4) 第51回釧路湿原マラソンの開催について
- (5) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

#### (1) 義務教育学校開校準備協議会（大楽毛地区・音別地区）の設置について

(小西教育政策主幹)

報告事項1、「義務教育学校開校準備協議会（大楽毛地区・音別地区）の設置について」報告する。

「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」においては、令和8年度に、大楽毛地区、音別地区において施設一体型の義務教育学校を開校することとしており、開校に向けて、各学校名、校歌、校章、通学路の安全確保などの協議を行うため、各地区において開校準備協議会を設置する予定である。委員については、「児童生徒の保護者の代表者」としてPTA等や、「未就学児童の関係者」、「コミュニティ・スクール協議会の代表者」、「地域や町内会等の関係者」、各校の「校長及び教頭」などで構成することとし、各協議会につき17名以内をもって構成することを考えている。会議のスケジュールについては、今年度に4回程度の会議を開催し、まずは校名の決定に向けて協議を進めていくことを考えている。教育委員会には、協議が進んだ段階で、報告をしたいと考えている。

なお、第1回目の開校準備協議会の開催予定日は、音別地区が6月5日（月）18：30から音別中学校で、大楽毛地区が、6月6日（火）18：30から大楽毛中学校にて予定しており、委員の選出については、各学校長に依頼し、選出の作業・調整を進めていただいている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

関係団体のところで認定こども園等とあるが、音別地区は音別の認定こども園1施設でよいと思うが、大楽毛地区にはよしの認定こども園のほかに保育園などもあると思うが、そのあたりの連携は取れているのか。

(小西教育政策主幹)

大楽毛中学校長、大楽毛小学校長と協議している中では、認定こども園よしの、釧路おたのしけ認定こども園の2つの園から未就学児童の関係者の方を選出していただくことで、協議を進めている。

### 【公開案件】報告事項

#### (2) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催について

(森学校教育部次長)

報告事項2、一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催について報告する。

中学校1年生を対象に、望ましい職業観や勤労観を養うとともに、中学校3年間のキャリアプラン形成の一助とすることを目的に、オンライン形式によるシンポジウムを開催する。

開催日時は、6月6日(火)の10:00~11:00を予定している。会場は、各中学校の教室等と釧路市中央図書館の多目的ホールをオンラインで中継し、高橋JC理事長、岡部教育長の2人のパネラーにより、「働くこと」と「生きがい」をテーマに、新中学校1年生に対してメッセージをいただく。コーディネーターは本川教育指導参事が務める。

今年度は全ての市立中学校及び義務教育学校が参加する予定となっているが、当日参加できない生徒のために、シンポジウムの模様は期間限定で動画配信し、全ての中学校1年生が本シンポジウムを視聴できるよう進めていく。

本シンポジウムを契機に、中学生の子供たちが「何のために働くのか」を自分の言葉で表現できるようになるなど、主体的に将来の生き方や生活につながる進路選択を実現できる資質・能力を身に付けることができるよう、今後もJCとの連携協定を基本としながら、キャリア教育を進めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

私たちも過去2回、何らかの形で参加させてもらい、非常に中身が濃く、私たちの想像以上に子供たちの食いつきも良い。これは素晴らしい取組みだと感心している。今回も10時から11時までのシンポジウムの場面と、それを受けて、学校ごとの振り返りという場面を、両方とも拝見させていただければなと思っているため、よろしくお願ひしたい。各学校のキャリア教育の全体計画の中に、このキャリアシンポジウムがしっかりと系統的に位置づいたものでなければ、点で終わってしまう可能性があり、それは良くないことと思うため、今後の学校への指導として、そのキャリア教育の全体計画の中でどのように続いているのかというあたりも、指導助言の場面で確認していただければと思う。よろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

今年から教育課程に位置づけるよう学校には指導しているが、ご意見を踏まえて対応していきたいと思っている。

(小出委員)

本事業はキャリア教育というぼんやりとしていたものを、具体的に何を目標にしてやるかということが明確になった事業だと1回目から思っていた。3回目ということで、先生たちも目的を持って理解した上でやるのが大事かなと思っている。ある教頭先生がおっしゃっていたことで、キャリア教育という枠の中の事業だが、これはこの授業だけでなく、生徒のすべての学校における活動に通じることが、全部含まれているとおっしゃっていた。教育長

の話聞いてメモをとり、自分で考えるなど、そのようなことからキャリア教育だけではなく、その生徒の資質を伸ばすというところで、すごく役に立っており、目的を持つことで生きていくと聞いている。そのようなことを、すべての先生たちが共通認識として持ち、活動に当たってもらえたら、すごく身になるものになるのではないかと思います。2年生になると、ジョブカフェという具体的に働いてる人に直接話を聞く機会にも繋がり、そのように繋がっていくものを確実に伝えていくということを、先生たちも明確に目標を持ってやっていただけたら、より一層充実したものになるのではないかと感じている。今回も楽しみにしているため、よろしく願いしたい。

(岡部教育長)

中学1年生1,000人おり、1,000人からくる質問というのは、非常に私もプレッシャー感じる場所である。

(種村委員)

釧路の民間企業の宣伝にもなると思う。いずれ大人になり、釧路に戻るようなことがあれば、このような会社があったなという。そういったことを経験する一つの大きなチャンスだと思う。キャリアシンポジウム、ジョブカフェのいずれにしても民間企業を知るうえでは非常に良い機会だと思うが、今後いろいろな会社の紹介みたいなことはあるのか。

(森学校教育部次長)

ジョブカフェの方は今後も継続することができるよう、検討を進めてまいりたい。まずは6月のキャリアシンポジウムをしっかりと行っていく。

(岡部教育長)

今回のキャリアシンポジウムは釧路の企業を紹介するという趣旨は持っていないが、JCと連携協定を結んだそもそもの私の思いは、釧路で働いている職業人から釧路で働くということの、意義や意味を語ってもらいたいというのが発端であるため、結果として地元の企業人が子供たちに訴えかけることで、そういった趣旨も含まれてくるのかもしれない。ジョブカフェもキャリアシンポジウムと連動させながら、しっかり横串の通った事業として進めていきたいと思っている。

#### 【公開案件】報告事項

##### (3) 令和5年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

(森学校教育部次長)

報告事項3、令和5年度「少年の主張」釧路市大会の開催について報告する。

「少年の主張」釧路市大会は、青少年が日常生活の中で思いや考え、感銘を受けたことなどを発表することで、社会の一員としての自覚と行動を促す契機とするとともに、市民が青少年の健全育成に対する理解と関心を深める一助とすることを目的に開催する。

対象は、市内中学校及び義務教育学校後期課程に在学している生徒となる。各学校から1名の代表者を選出いただき、今回は16名の発表で行う。日時と会場については、6月3日

土曜日の13時30分開会とし、会場はコーチャンフォー釧路文化ホールの小ホールで審査員との対面方式で行う。発表者は1人5分程度の時間で発表を行い、その中から最優秀賞1名を選出し、釧路総合振興局地区大会の出場者として推薦する。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から入場制限を設け、学校関係者及び家族以外の来場をお断りしたが、今年度は、入場制限を撤廃して開催する。なお、当日はオンライン配信も実施し、来場出来ない生徒、親族、学校関係者にも視聴していただくよう、学校へ対して周知を進めていく。また、どうしても当日参加や視聴することができない方たちのために、後日、大会の様子を期間限定で動画配信して、子どもたちの発表を視聴できるよう進めていく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

これは伝統ある事業である。教育委員からの審査員はどなたか。

(種村委員)

私が審査員を務めさせていただく。以前も審査をしたことがあり、今でも覚えているのが、5分間の中で全く原稿を見ること無く、審査員や会場の人たちの心を掴む話があり、とても印象に残っている。今回も楽しみにしている。

#### 【公開案件】

##### (4) 第51回釧路湿原マラソンの開催について

(乙黒スポーツ課長)

報告事項4、第51回釧路湿原マラソンの開催について報告する。

第51回釧路湿原マラソンが本年7月30日に開催される。申込期間は、5月1日から6月9日までとなっており、インターネットサービスのRUNNETにより申し込むことができる。本大会のゲストランナーについては前回大会に続き、プロランナーの川内優輝選手に参加していただけることとなっている。

今大会からの新たな取組みとしては、新聞・専門誌への広告掲載や、釧路市LINE・SNSによる大会周知など、紙とデジタルの両媒体を活用した、幅広い周知活動を行っているが、さらに、子供の参加者を増やすための取組みとして、釧路市・釧路町の小中学校全生徒への大会チラシの配布や市内各学校への部活動単位での参加依頼を行っている。

また、変更点として、多くの参加者に完走していただくため、30kmマラソンの開門時間延長をした。コースの変更については、警察と協議の中で警備の安全上の問題から10kmマラソンのコース変更を行った。

釧路湿原マラソンは、子供から大人まで、幅広い年代の方々に参加いただき、市民のみならず愛されるスポーツイベントとなるよう、大会運営のスタッフ等と協力して本大会の実

施に努めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

子供たちの参加を促すための取組みも力を入れているという説明であったため、納得した。チラシの配布だけでは食いつきが悪いのではないかと思っただが、今の説明の中で、部活動単位の参加を促すような手だても講じているとあった。子供1人1人が個人的に参加することは難しいと思うため、小学校であれば同好会単位、中学校であれば部活動単位での参加に対するアプローチを行う必要があると考える。そうすることによって子供たちの参加人数も増えるのではないかと期待しているため、よろしく願いたい。

【公開案件】 報告事項

(5) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項5、学校の現状について報告する。

はじめに、今回の非常に痛ましい事件の概要については、報道の範疇でしか私たちも知り得ていない。教育委員会としては、大きなショックを受けている子供たちの心のケアを第1に考え、事件発覚後、最初の登校日となった5月8日に、当該の学校と卒業生が1番多く進学している近隣の中学校を訪問すると共に、速やかに学校カウンセラーを毎日派遣して、関係している児童生徒に対するアンケート調査の実施や、子供たち同様に深い心の傷を負った教職員や保護者を対象にカウンセリング等に当たっているところである。現在は、かなり落ち着きを取り戻し、平常に戻りつつあるが、引き続き子供たちや教職員の心のケアに当たっていく所存である。被害に遭われた先生のご冥福をお祈りし、哀悼の誠を捧げたいと思う。

1点目、コロナが5類に移行し、様々な制限が緩和されている。学校行事を含め、日常の教育活動を全て以前に戻すというより、新しいスタイルでの活動にシフトしつつある。また、マスクの着用についてはインフルエンザ流行の報道もあるためか、比較的まだ着用している子が多いように感じている。

2点目、各種学校訪問について、今年度も教育長による全小・中・義務教育学校の訪問が始まっており、全学級の授業を参観している。学校教育部長・次長・総務課長も同行して実施しており、本日までに19校の訪問を終え、1学期中を目処に精力的に訪問している。あわせて、1回目の訪問、いわゆる1次訪問といわれるものであるが、参事と指導主事、もしくは総括と指導主事で訪問しており、これは全学級に加えて全教師の授業参観を行い、各学校の当面の課題や鉏路市がめざしている「子供たちが主役の授業」づくりに向けた指導助言を行なっている。また、教育局の教育指導監と教育指導参事による、管理職対象の学校経営

訪問も並行して実施している。

3点目、研究指定と公開研究会について、今年度は、市教委の研究指定として、幣舞中学校と鳥取西中学校で公開研究会を予定している。いずれも10月を予定しているが、日程の最終調整に入っており、詳細の日程が決定次第、委員の皆様にお知らせしたいと思っている。今回は新しい形の公開研のあり方を計画し、すでに幣舞中、鳥取西中の2校が研究内容を「鉏路市がめざす授業」に焦点をあてて連携して進めており、これまでに指導主事を6～7回派遣している。

4点目、算数・数学に関するアンケートについてである。これは、昨年度、平木外国語教育アドバイザーが英語に関するアンケートを実施し、客観的に英語教育の課題や傾向を把握できた。今回はそれに準じ、当市の課題である算数・数学でも実施することとした。小3～中3までの全ての児童生徒及び算数・数学を教えている全ての教員を対象に現在実施中である。年度が始まってからの企画で、5月17日の定例校長会議にて初めて提示したが、校長会の了解をスムーズに得ることができ、すでにかかなりの学校・学級からの回答を得ている最中である。これを基に、全市的及び学校ごとの算数・数学の授業の課題や、教える先生側の課題や悩み等をより焦点化し、早い段階で学校現場に情報提供を行い、算数・数学の授業改善の一助としたいと考えている。

5点目、国の施策により、教員免許更新制を発展的に解消し、新たに研修履歴記録を教員個人ごとに作成する取組みが国から出されたが、国に先駆けて本年度から道教委が実施する旨、通知があった。まだ不明な点が多いが、道教委や周辺町村教委とも情報交換をしながら、個々の教員に不利益が生じないように、教育政策担当を中心に実施していく。

6点目、来年度から使用の小学校の教科書採択について、来年度から小学校で使用する教科書の採択をこの夏に行うものであるが、法令に基づき、教育政策担当を中心に、現在、教科用図書調査委員会の実施に向けて準備を進めているところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

亡くなられた先生に対し、私からも謹んでご冥福をお祈りしたいと思う。参事からもあったように、教育委員会としては事件の真相を知るすべもなく、また、それを知る範疇でもないが、なんとしても全力で学校や子供たち、保護者、先生の心のケアを万全に行っていきたいと思っている。

(山口委員)

先生の件については、教育委員会から報告を受けており、私たちが経緯については承知している。心配なことは、残された子供たちが動揺することが1番問題ではないかと思ったが、きめ細かな対応の成果で、学校生活に馴染んで落ち着いた生活をしてきていることが何よりだと思う。亡くなった先生については本当に哀悼の誠をささげたい。これは皆同じ気持ち

だと思う。

何点か聞かせていただきたい。教育局の指導主事と一緒に学校経営訪問を計画されているが、去年から見て前向きに変わっている気がした。これは市教委のプランに教育局が協力してくれているのか、教育局のプランに市教委が協力をしているのか、どちらなのか。

(本川教育指導参事)

市教委のプランに教育局が協力してくれている。

昨年度から市教委が独自で学校訪問を行うことを、前大山教育指導参事より発案され、実施していた。この度、令和5年度が始まり、昨年度のやり方を踏襲し、もう少し強化した形で私たちが計画し、学校にアナウンスをしていた。その後、教育局から以前のように戻して教育局が主導でという話があったが、頻繁に変わることは学校現場が1番混乱するため、今回は市教委独自で行いたいが、そこに教育局が協力するというのであればと協議した結果、このような形でということになったため、私たちの計画に教育局が協力し、一次訪問を行っているというのが現状。

(山口委員)

良い傾向だと思う。やり方が頻繁に変わることは学校現場も混乱するため、昨年度に引き続き市教委が主体で取組みを行っていくことが、釧路市の教育全体を安定、充実させていくことに繋がると思う。この視点をこれからも大切にしていだければと思う。

もう1点、算数数学に関するアンケートについて、非常に良い取組みが始まったと思う。参事の説明の中に、校長会に説明し、理解を得て、学校で取り組んでくれているということで、教育委員会のプランやリクエストを学校側が正面から受けとめるように、学校もだんだん変わってきたと思う。教育委員会と学校現場が一体となって釧路の子供たちのために、これからもどんどん進めていだければと思う。このアンケート結果をどのように生かしていくかということにも期待し、その結果、算数数学の授業改善に繋がり、子供たちの算数数学の学力が上がっていくことを期待したい。